



それでもいい教育を、と臼井幼稚園を選んでくださった皆さまに、いつも感謝しています。これからも努力して参ります。

園長 志田裕美子

<担任から今月のメッセージ>

発表会、お越しいただきありがとうございました。はな組のラピュタは、2月入ってすぐにはエンディングまで完成しており、お家の方に見ていただく日を、ずっと心待ちにしていた子が多かったので、当日も緊張する…という子は少なく、「楽しみー！」と気合いを入れている子が多く、朝から緊張マックスだった私の心も、少し和らぎました。中には、「緊張する」と泣いてしまう子もいましたが、周りのお友達が、大丈夫だよ！と優しく頭を撫でてあげたり、手を繋いであげたりと、子ども達同士で支え合う姿も見せてくれました。

この冬はしっかりと寒く、子ども達の冷たい手に触ると静電気がびりびり！どんなに寒くても、外で遊びたい子ども達が愛おしいです。そしてここまでインフルエンザはほとんど皆無、風邪でお休みもとても少なかったのが、嬉しい限りです。

発表会が無事終わり、今年も本当に素敵な作品ができました。予期せぬ事態も発表会の最中に起こっても、子ども達が自分の頭で考えて問題解決したり、友達をさりげなくフォローしたりすることを目にしました。そんな時に、幼稚園生活の経験で培われた子ども達の力を感じるのです。困っている友達は自然に助けられる、素敵なシーンを何度も見せてもらいました。

ひとつの劇を作り上げる、という共通のイメージと音楽で、どんな子も自分の思う通りに表現できるこの作品づくりはまさに世界にひとつだけのものです。

支援の必要なお子さんも一緒に、行ないました。発表会には出ない、とお決めになった保護者の方もいらっしゃると思います。それもひとつの表現として受け止めています。色んな表現方法を、認めていける世の中であって欲しいです。臼井幼稚園は、色んな子どもがいて、みんな違ってみんないい。かっこいい理念とか、「こういう子を育てます」とか、机上の理想は不要だと思っています。子ども達はみんな生きていて、煌々しい。卒にはめられないからこそ美しいのです。

アクティブラーニングと文科省が推進している小学校教育は英会話もタブレットも取り入れてはいますが、本当に一人ひとりが得意なことを好きなように伸ばせる環境にあるのか？疑問を覚えずにはいられません。

幼稚園では年長の3学期頃に、個性がぐっと出てきます。私の感覚ですが、際立ってくるのが3学期、もっと早い子ももちろんいます。そうすると、もう卒園を迎えます。寂しくて晴れやかな旅立ちの日。この個性をどんどん伸ばして行って欲しいです。そのためには、親御さんのお子さんへの向き合い方が大変大切です。全面的に自分を受けて入れてくれる親御さんがいるからこそ、子どもは社会でもやっていけるのです。親御さんに信頼され、愛されているからこそ、先生を信頼できる子どもに育ちます。絶対に受容されている子どもは自己肯定感があり、生きていく力が自然に身につきます。

世の中が、お母さま方も働くことを求め、そうしなければ生活するのが難しいように政治が仕向けています。だから保育園を乱立しているのです。そこで抗うにはあまりに無力で、ただただ経済的につらくなるだけ。怒りでいっぱいですが、仕方ない。

本番の映像を見返してみると、やっぱりいつもよりは緊張しているのかな？と思うところもありましたが、大勢のお客さんの中で、みんなが最後までやり切る姿に感動しました。途中で初めてのハプニングもいくつかありましたが、全て、ひとりひとりが一生懸命、役になりきってやってくれていた証拠ですね！

エンディングのピアノを弾いている時には、みんなの歌声から伝わる熱い想いに、みんなの気持ちのこもった表情に、思わず涙が溢れてしまいました。実はエンディングの曲を決める時に、元気いっぱいのはな組には、もっと違う曲の方が良いのでは…？と少し迷いました。でもでも！あの元気いっぱいのはな組が、この曲を歌いきったら？と想像したら、想像しただけで涙が浮かびそうだったので、ビリーブの曲のままいくことにしました。結果、素敵に歌い上げてくれましたね。最高のエンディングを見せてくれてありがとう。

そして何よりも、みんなが大好き！と言ってくれる、ラピュタが完成したこと、お見せできたことが嬉しいです。

さあ、発表会が終わったら、残り1ヶ月でみんなは大きい組です。3学期のあっという間に過ぎ去っていくスピード感について行けていません。はな組でみんなと過ごせる残り少ない日々、1日1日を大切に、後悔のないように過ごして行きたいです。最後まで、よろしく願いいたします。

長谷川 裕子